

夏秋トマト栽培における天敵を活用したコナジラミ類の防除技術の開発

【研究のポイント】

県内の夏秋トマト産地では、コナジラミ類の発生が問題となっており、近年は収穫期間の延長に伴い、すす病や黄化葉巻病が多発する原因となっています。生産現場では、薬剤感受性の低下で防除が困難となっており、さらにはマルハナバチの利用で利用できる農薬に限られるといった状況もあります。本研究では、コナジラミの薬剤感受性検定および天敵資材（タバコカスミカメ）を活用した防除技術の開発に取り組みました。



コナジラミ類



すす病



黄化葉巻病

天敵資材
(タバコカスミカメ)

【研究の成果】

1 コナジラミ類に対する薬剤防除効果

現地で採取した、オンシツコナジラミ成幼虫およびタバココナジラミ成幼虫に対する薬剤感受性検定を実施しました。その結果、2系統（IRAC5、6）3剤の薬剤で補正死虫率90%以上と高い効果が認められました。

2 天敵資材によるコナジラミ類への防除効果

令和4～6年度に現地圃場および場内圃場にて天敵資材のタバコカスミカメを用いた試験を実施しました。その結果、オンシツコナジラミとタバココナジラミが混発する中、全圃場で薬剤防除区と同等の防除効果を確認することができました（図1）。また、R5年の場内圃場試験では、タバコカスミカメが黄化葉巻病の発生軽減にも寄与していることが分かりました（図2）。

3 タバコカスミカメの密度抑制

タバコカスミカメはコナジラミ類の防除に効果的である一方、盛夏期に増殖し、トマトの茎などを加害する場合があります。その場合の対処法として、コナジラミ類に登録があり、現地でも利用されている5薬剤について試験したところ、コナジラミ類の防除だけでなく、タバコカスミカメの密度抑制効果も確認することができました。

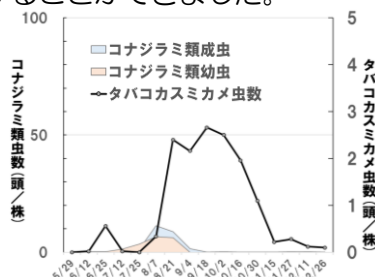
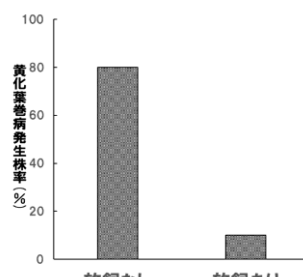
図1. 天敵資材活用による各種頭数の推移
（竹田市荻町の事例）

図2. 黄化葉巻病発生割合

【生産者の声】

毎年コナジラミの発生が多く、対策に苦慮していました。天敵のタバコカスミカメを放飼することで、コナジラミの防除効果をはっきりと確認することができ、防除がだいぶ楽になりました。周りの生産者にもタバコカスミカメの活用をおすすめしています。
（大分県農協トマト部会 副会長 佐藤勝己氏）

【連絡先】

担当：農林水産研究指導センター 農業研究部 病害虫対策チーム
TEL：0974-28-2078
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8